



第 9 1 号
2025年12月20日発行

《問い合わせ》 市民協働推進課 0287 (62) 7019

女性のキャリア形成について考えてみよう

女性は結婚・出産・育児といったライフイベントに大きく左右され、継続したキャリア形成が築きにくい状況下に置かれています。特に日本では女性役員比率も低く、先進国の中でもワーストクラスです。

この問題の要因には、「柔軟な働き方に対応できる労働環境整備が追いついていない事」「育児や介護といった家庭と仕事との両立に困難を感じてキャリアアップに消極的な事」などが指摘されています。

いま、私たちの身の回りでこのような問題因子を解決できる施策はあるのでしょうか？

柔軟な働き方を可能にするIT分野でのキャリア支援



2025年4月に施行された育児・介護休業法改正を受け「テレワークの努力義務」が企業に定められました。

いまテレワークの普及は、働く時間や場所の制約にとらわれない、柔軟な働き方として認知されているほか、女性の県外への転出に歯止めをかけるための施策としても注目されています。

そこでテレワークの普及に向けた県内の取り組みをいくつかご紹介しましょう。

● 栃木県の施策 ●

現在栃木県は女性が生き生きと働ける雇用と産業を創出するための事業戦略を昨年度より向こう7年間策定しています。中でも「**女性デジタルワークシェアリングモデル事業**」や「**女性デジタル人材育成・活躍支援事業**」はオンライン等でデジタルスキルを受講し、キャリアカウンセリングや就労に向けた支援を行うといった内容です。このような事業を通して働く時間や場所にとらわれない柔軟な働き方への取り組みが行われています。

(注) 女性デジタルワークシェアリングモデル事業
ならびに女性デジタル人材育成・活躍支援事業は
いずれも今年度の募集は終了しています。



詳しくはこちら

● 那須塩原市地域共創事業 ●

那須塩原市内でもこの度、テレワークに必要なスキルが無料で学べる「リモスキルーム～テレワーカー養成講座～」が始動しました。

こちらのプログラムは、実績豊富な現役フリーランスの方を講師に迎え、約4ヶ月間にわたりデザインやSNS等の基礎を学べるだけでなく個別カウンセリングで自分に合った働き方について相談ができるといった内容です。

(注) 今期の募集は既に終了しています。



詳しくはこちら

このようにリモートワークの普及は家庭の事情で時間や場所等の制約がある
女性たちへの新たなキャリアの選択肢としていま期待が寄せられているのです。



育児や介護の相互理解と社内チームワークの向上に取り組む「なり麒麟研修」



家庭や仕事との両立には課題も多く、時にはキャリアを断念せざるを得なかったりするケースも少なくありません。家庭や職場内で協力し合える環境作りと意欲改革が必要だと言われて久しい中、社内研修から課題と向き合う企業を紹介します。

麒麟ホールディングス(株)が実施する「なり麒麟研修」は、従業員が仕事と育児などを両立する当事者になりきる体験型研修です。

子供の発熱など突発的な対応が迫られる環境を疑似体験することで、今までの業務の進め方を見直すだけでなく、様々な立場の人たちを思いやる相互理解を深めることがこの研修のねらいです。

コースは「育児」「親の介護」「パートナーの看病」の中から選択し、各コースの状況設定の下で実施されます。研修期間中の残業は原則行いません。

～育児の例～

ある日、(擬似的に設定された)保育園から突然のお迎え要請が入ると、対象者は周囲に退勤する旨を報告し、業務の引継ぎなどを行い退勤します。退勤後は家族との団らんや、資格の勉強など時間を自由に活用することが可能です。

約1ヶ月の研修で得られた気づきや反省点などを振り返り研修レポートを作成、研修終了後も振り返りの機会を設けて相互理解への定着化を図ります。

研修は性別・雇用形態問わず多くの従業員が参加するため、両立支援の気風がグループ全体に広がっています。

参加者からは「家事を積極的に行うようになった」「子供との会話時間が増えた」など家事育児への変化や、「職場のメンバー間でお互いをフォローし合える関係作りにつながった」「メンバーへの権限移譲が進んだ」という職場の変化を実感する声も聞かれました。

一方で、「フォロー体制に必要な人材育成の強化」や「業務効率化のさらなる改善」という新たな課題も見えてきました。

一連の取り組みを知った地方自治体などから「研修を導入したい」という声もあがっており、革新的なワーク＆ライフバランスの取り組みとして各方面から注目と期待が寄せられています。

「なり麒麟研修」については
こちらをご覧ください。



先日、市議会が主催する「ようこそ議長室へ」という会に参加しました。普段は入ることのできない議長室で議長・副議長と和気藹々お話をすることができ貴重な経験でした。もっと近くで市民の声を聞いて、より良い市政にしていきたいという熱い思いにも感動しました。東京から那須へ移住してきて丸3年が経ちますが私も夫も子供もこの那須の街が大好きなので、地域や議会をもっと良くするために議員の方々の頑張りに加えて私たち市民も声を届けていきたいと思っています。(佐藤)

那須塩原市シルバー人材センター

詳しくはこちら

那須塩原市シルバー人材センターは、経験豊富な高齢者が屋外作業や家事手伝いを承り、暮らしの「困った」をサポートします。お気軽にご相談ください。



不妊治療費助成

詳しくはこちら

那須塩原市では、男女問わず保険適用外の検査・診療費用を助成。経済的負担を軽減し、希望する治療や検査を支援します。



「みいな」は市役所、公民館、図書館で配布しています。
バックナンバーは市のホームページでご覧いただけます。



みいな 第91号 2025年12月発行

企画・編集：那須塩原市 市民生活部 市民協働推進課

〒325-8501 栃木県那須塩原市共墾社108番地2

☎ 0287-62-7019

市民編集委員：大嶋、佐藤、高根沢、室井